

My life in Kuji

レネー・エストリッジ さん

インディアナ州・27歳 / 夏井小、久喜小、小袖小、久慈中、宇部中、山形地区の小中学校を担当



台風10号襲来

8月末、台風10号が久慈を襲いました。思えば、私のはじめて久慈に来たのも震災の年の8月でした。震災の時もそうでしたが、力強く立ちあがる久慈の皆さんの姿は、見ていて本当にいつも頭が下がる思いです。

今回は、市役所で一緒に働く職員の皆さんについて書こうと思います。台風の夜、私たちALTは教育委員会のオフィスに避難して一夜を過ごしました。私たちは少し仕事を手伝い、ニュースを見つつ仮眠を取りましたが、その間も事務所では夜を徹して市民からの電話に対応し、道路状況の確認に向かい、夜が明けても学校への連絡など忙しく働いていました。教育委員会だけではなく、他の部署も通常業務に加え復旧に向けた取り組みを続けています。知り合いの男性は、道路が危険で家に帰れず、1週間も車で寝泊りし「いつも通り」仕事をしていました。まちのことを考え、復旧に向けて頑張っている皆さん、大変おつかれ様です！



災害ボランティアで民家の泥出しをするレネーさん

協力隊の元気通信

志水 彩子さん
(しみず あやこ・32歳)

神奈川県小田原市出身。山形総合支所産業建設課勤務。山形町の特産品を使った商品開発に日々奮闘中！



タン君と一緒にみじ場所でお待ちしています！

●地域おこし協力隊…移住定住促進を目的に、都市部からの移住者に対して市が委嘱。地域おこしの支援（地域行事やイベントの応援、地域ブランドや地場産品の開発・販売・PR、情報発信など）や農林水産業への従事、住民の生活支援など「地域協力活動」を行います。



他の場所に移植しても種をまいても良い実がならないと言われる山口柿



国道281号沿いの山口地区に並ぶ柿の木。大川目むかし語りによると、この柿は弘法大師から授かった柿で、「山口柿あ粒あおつきくて種もない」と言われ、この地の名産品になったということです。

山口柿は、昔から柿渋を採取するために植えられてきましたが、干して渋抜きを行い、保存食とするために植えていたとも言われています。

今はまだ緑色の小さな粒ですが、葉が落ちる頃には、橙色の粒が鈴なりに実り、その様子はまるで空を彩る打ち上げ花火。晩秋の空に映える「柿花火」をぜひ一度ご覧ください。

ぶらりくじ歩き

弘法大師からの授かりもの 山口柿の柿花火

問 大川目公民館 ☎55-3250

いいとこいっぱい山形町

4月から地域おこし協力隊に着任しました志水彩子です。外から来た人が山形に遊びに来たらコレを買って帰ろう、地元の人が手土産を持って行く時はコレを買っていこう、と思うような商品を作りたいと思っています。また山形町のいいところをどんどん発信していきたいと思っています。

10月16日(日)には平庭高原で平庭闘牛大会もみじ場所が開催されます。牛がぶつかり合う音や巻き上がる砂ぼこり、勢子の掛け声などはすごい迫力で、とても見応えがあります。闘牛を見た事がない方もぜひ一度お越しください！



復旧作業をお手伝い

きらり人輝く



1/音楽によって体を動かすミュージック・ケアで交流 2/話がはずむコミュニケーションタイム 3/握手を交わしてお別れ 4/昼食会の料理も手作りで準備 5/楽しんでもらえるようにと心を込めて会場を飾り付け



もっと仲良くできたらいいな！ 中学生とお年寄の交流会を開催

大川目町で20年以上にわたり活動を続けているボランティア団体「Dreams ブロッコリー」(高谷淳子さん主宰)。現在は、大川目中学校の生徒18人が参加して活動しています。8月27日、地域のお年寄を招いて、大川目公民館で「おじいちゃん、おばあちゃんと中学生との交流会『仲良くできたらいいな』」を開催しました。

交流会のきっかけとなったのは、以前から行われていた絵手紙交流。一人暮らしの高齢者を元気づけようと、メンバーがペアになった高齢者に絵手紙を送っていました。この活動の中で「日ごろ絵手紙を送っている人たちと、実際に会って交流してみたい」「もっと役に立つことができたらいいな」という意見が出され、交流会を企画することになりました。

開催費用には、地域づくりを応援する「北三陸じもっと基金」の共感寄付を活用。開始から数カ月で、目標だった10万円の寄付金を集め、開催に漕ぎ着けました。開催が決まったあとも、メンバーたちは準備に大忙し。当日も、朝から会場の飾り付けを行い、食生活改善推進員に教わりながら、昼食会の料理も準備しました。

交流会には、地域のお年寄13人を招待。メンバーによる「よさこいソーラン」の披露や手作り料理での昼食会、腹話術師の藤野静江さんの講演などが行われたほか、コミュニケーションタイムには、地域の昔話やご近所話、祭りの話など、世代を超えてジモトの話題に花を咲かせました。会の最後は、開催に協力してくれた人たちにお礼をし、お年寄一人一人と握手を交わしてお別れ。世代を超えてみんなの笑顔があふれる交流会で、これからもずっと、もっともっと「仲良くできる」はずです。



Dreams ブロッコリー代表

野場 美羅さん(大川目中3年)

■初めて企画した交流会
絵手紙をさしあげていた方と会って話してみたいと思って企画した交流会。手紙での交流はあったけれど、実際に合うのは初めてで不安もありましたが、私たちもお年寄もみんな楽しんでくれたようでした。良かったです。私自身も、中学校に入って以来ずっと絵手紙を送っていた方から「ありがとう」と言ってもらえたことが、とても嬉しかったです。
■たくさんの感謝を胸に
今回の交流会は、たくさんの方から寄付をいただいたから開催することが出来たし、地域の方たちが手伝ってくれたから成功させることが出来たと思います。応援してくれた皆さんに「ありがとう」という気持ちいっぱいです。
私は今年で卒業ですが、これからもずっと交流を続けていって欲しいと思います。